

Living the LOTUS

Buddhism in Everyday Life

12
2018

VOL. 159



さんげ 懺悔は精進の決意

今年一年を振り返って、「これだけはやりぬこう」と誓ったのに、まだできなかったとガッカリしている人がおられるかもしれません。しかし、思い立っても実行がいかに難しいかを思い知っただけでも、一つの前進だと思うのです。

「善人なおもて往生をとぐ。いわんや悪人をや」と親鸞上人はおっしゃられます。ちょっと逆のように聞こえます。どんな悪人も広大な慈悲でお救いくださる仏さまなのだから、まして善人をお救いくださらないはずがない、というほうが分かる気がします。

しかし、「私は、これっぽっちも間違っただけはして

いない」と思い上がると、仏さまのお救いも、教えも求めなくなってしまうのです。自分の弱さ足りなさを本当に思い知った人は、真剣に教えを求めずにいられません。その自覚を持った人こそ、仏さまのいちばん近くにいる人なのです。

自分が弱くて間違いやすい人間であることを思い知ったら、新たな決定をし直せばいいのです。今年だめだったら、来年は必ずと決心すればいいのです。それができれば願いは必ずかないます。懺悔とは、新たな決意で一步を踏みだすことです。

(庭野日敬『開祖随感』9 p. 104-105)

Living the Lotus 2018年12月号 (Vol.159)

【発行】立正佼成会 国際伝道部

〒166-8537 東京都杉並区和田2-7-1

普門メディアセンター3F

Tel: 03-5341-1124

Fax: 03-5341-1224

E-mail: [living.the.lotus.rk-international](mailto:living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp)

[@kosei-kai.or.jp](mailto:living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp)

編集責任者: 齋藤高市

編集チーフ: 金尾江利子

校閲者: 竹谷祐市郎、小坂和正、菊池克之

編集スタッフ: 国際伝道部スタッフ

立正佼成会は 1938 年に庭野日敬開祖、長沼妙佼協祖によって創立された、法華三部経を所依の經典とする在家仏教教団です。家庭や職場、地域社会の中で釈尊の教えを生かし、平和な世界を築いていきたいと願う人々の集まりです。現在は庭野日鏡会長とともに、私たち会員は仏教徒として布教伝道に励みながら、宗教界をはじめ各界の人々と手をたずさえ、国内外でさまざまな平和活動に取り組んでいます。

Living the Lotus—Buddhism in Everyday Life(法華経を生きる～生活の中の仏教)というタイトルには、日々の生活のなかに法華経の教えを活かして、泥水に咲く美しい蓮の花のように、人生を豊かに、そしてより価値あるものにしていきたいとの願いが込められています。本誌を通じて、世界中の人々に日々の生活のなかで活かす仏教の教えをお伝えします。

使命にめざめる

立正佼成会会長 庭野日鑑



道を楽しむ人に

幕末のころ、福井に生まれた歌人の橘曙覧^{たちばなあけみ}は、日常のささやかなできごとを、感謝と喜びに満ちた、幸せあふれる歌に残した人です。

「たのしみは紙をひろげてとる筆の思ひの外に能くかけし時」^{ほかによく}「たのしみは妻子^{めこ}むつまじくうちつど^{かしら}び頭ならべて物をくふ時」^{ほかによく}「たのしみは朝おきいでて昨日まで無かりし花の咲ける見る時」……。 「たのしみは」で始まるこうした歌からは、いつ、どのようなときも、ものごとを感謝で受けとめる穏やかな心の内を感じとることができます。

この八か月間、「ハ正道」^{はっしょうどう}の徳目の一つずつとりあげて、私なりにその意味あいをお話してきました。そして今月は、「ハ正道」の最後に示された「正定」^{しょうじょう}です。

「正定」とは、心が常に仏の教えに安住していて、周囲の変化によって動揺しないことと受けとめられますが、たとえ貧しくても悲観せず、そこにある幸せを精いっぱい感受する橘曙覧のような心も、「正定」の一つでありましょう。「楽しい」とか「楽しむ」という境地はほんとうに大切なもので、「ハ正道」の最初の「正見」^{しょうけん}について「気持ちが楽になる見方」(本年五月号)とお話したことにも通じます。『論語』にも、「之^{これ}を知る者は之^{この}を好む者^しに如かず。之^{これ}を好む者は之^{この}を楽しむ者に如かず」とあります。人が道を修めようとするとき、その道を「楽しむ人」にはだれもおよばないということです。

なにごととも楽しいと受けとめる——そういうものの見方を心がけていると、気持ちが楽になって、目先の苦に迷うことのない、ほんとうに安楽な人生を歩めるのです。





願いをもって

ところで、「八正道」の「正」という字は、「一」と「止」が組み合わさってできています。仏の教えの「一」といえば、もちろん「真理」であり「法」です。いわば「八正道」の各徳目は、いずれも私たちが「真理に止まる」ための実践であり、その基本となるのが初めにおかれた「正見」といえます。その意味でいえば、「八正道」のすべてを修めるのは荷が重いという人も、日々の暮らしのなかで、何かにつけ、ふと省みて「正見」に立ち返る習慣をつけることが大事なのだと思います。

とくに、ものごとに行き詰まったときとか、心苦しいときには、「一」つまり「真理」に帰る意味で目の前の現象を正しく見ていくと、何が心を悩ませ、どうすれば気持ちになるのかがわかるのではないのでしょうか。

こうして真理にそった生き方を求める仲間を、仏教では「正定聚」といいます。平たくいうと「仏さまのようになりたいと決意した仲間」のことですが、この言葉からは「正定」のとらえ方をさらに深めることができそうです。

仏さまのように、ものごとをありのままに見ること（正見）によって、静寂で澄みきった心（正定）を得る——それは「あの人の苦しみを除いてあげたい」「この人が慈悲の心を得るお手伝いができたらいいな」といった、菩薩としての願いをもって生きるということでもあるのです。

ただ、そのような誓願をもつに至る方法は、もちろん「正見」に限りません。「八正道」が八つの徳目に分けて示されているのも、「一人ひとりの個性にあった精進の仕方です」という、釈尊のあたかな教えの示し方に違いないのです。

私たちはみな、お互いに生かし生かされています。そのなかで、仏の教えをとおして人間らしい生き方を学んだ私たちは、仏への道を歩みつつ、一人でも多くの人の仏性開顕という使命を果たしていきたいと思います。

（『佼成』2018年12月号）





自分から人とつながっていくことの大切さに気づいて

小金井教会
梅津 圭佑

この体験説法は、2018年8月4日に大聖堂で行なわれた開祖さまご命日式典で発表されたものです。

みなさまお願いします。私は、平成十二年、東京都国分寺市で梅津家の長男として生まれました。曾祖母が姪にあたる小泉さんに導かれたのが、佼成会との出会いでした。昭和二十三年に入会した曾祖母は、教えに心を救われ、国分寺の町中を布教して歩いたそうです。梅津家に嫁いだ祖母は、最初は反発していたものの開祖さまの平和論に感動し、信仰を受け継いでいきました。両親は青年部活動で出会って結婚し、現在もお役をいただいて修行しています。決して裕福な家庭ではありませんが、仲の良い家族の中で育てていただき、四代目となる私も、自然と教会に足を運ぶようになりました。

一昨年、母の声がかすれ始め、病院で検査を受けたところ、気管の中に腫瘍ができていたために声が出にくくなっていることが分かりました。呼吸を助けるために、母は気管を切開して呼吸器をつけ



大聖堂で説法する梅津さん

る手術を受け、その後は呼吸器をつけたまま生活することを余儀なくされました。母はいつもと変わらずに家事をしていましたが、呼吸器からは息をする音が漏れ、それを隠すために巻いているスカーフはとても不自然に見えました。母は三年前にも右耳の内側に血管腫が見つかり、鼓膜を切除する手術を受けています。母の身に連続して起きた不幸に当時の私は戸惑っていました。

母は家事を一手に担い、家族を支えてくれていました。そんな母に対して、「有り難い」と思うことの方が多のですが、私が帰宅後に一日の出来事を話していると「それは因縁だからね・・・」などといちいち言うのを、うるさく感じていました。他にも、私が宿題をやろうとしているのに、「やってるの?」と聞かれ、「今やろうと思っているのに、しつこいなあ」と思うことが多々ありました。しかし病気が分かり、声が出なくなった母は、電話が鳴って受話器を取っても「もしもし」とも言えず、来客とも話ができないので、私が母の代わりをするようになりました。母が伝えたいことは筆談となり、話しかけても返ってこないことがもどかしく、自分のやるが増え、母が話さない家は静かすぎて時間の経つのがとても長く感じられました。このままの生活が続いていったら・・・と思うと、これからどうしていったら良いのだろうと不安になる日もありました。

そんな状態が2カ月ほど続き、母と会話できないことが寂しく感じられ、次第に今までの母の言葉は私に対する優しさの表われだったのだと気づかされました。

声が出ること、元気で何事もなく生きていけることは、当たり前ではないということを、母が身をもって教えてくれているように感じました。気が付くと、それまでは母の手伝いを仕方なくやっていたけれど、何のためらいもなく出来るようになっていました。母はその後、治療を受け、戻らないと言われていた声が奇跡的に出るようになりました。今、病気について母は、「つらい治療を受け続けることが出来たのは、祈って下さっている人がいると思えたからです。感謝しかありません」と話しています。自らつらい経験をしながらも、心配してくれた人の思いを大切にしている母の姿を通し、私も人のことを思いやれる自分になりたいと思いました。

母の病氣療養中、私は高校部長のお役をいただきました。昨年の夏、多摩支教区の広島平和学習会に参加し、仲間と共にいのちの尊さ、戦争や原爆の悲惨さを学んできました。

ある時、一緒に平和学習に参加したY君が新学期から登校していないことを聞かされ、部長の私は居ても立ってもいられなくなり、手どりに行くことにしました。「会ったら何を話そうか」と思いながら自転車を漕いでいたけれど、その日はインターホンにも応答がなく、せっかく行ったのに会うことも話すことも出来ず、とても残念に思いました。結局、思いの丈を手紙に書き、郵便受けに入れ、その日は家路につきました。それから二週間が経ち、教会でY君のお母さんに会いました。Y君は、手どりに行った日の翌週から頑張って学校に行っていると聞き、とても驚いたのと同時に、Y君が頑張っていることをとても嬉しく思いました。そしていつの間にか、母のことを祈ってくれていた方々のように、自分も誰かの力になれているのかもしれないと感じられました。Y君には、手紙を読んでもくれたことや頑張っていることを知って嬉しかったことを直接伝えたくて、何度か会いに行きましたがなかなか会えませんでした。「元気かな?会いたかったなあ」という思いが募りました。しかし、Y君とのことを通し、会うことだけが良いことではなく、会えなくても、

その人のことを思い続ける自分の心がより優しく温かくなっていることを教えていただきました。Y君とつながれる日を楽しみに、今も手どりを続けています。

いつも明るく笑顔の父を中心に、どんな些細なことにも「ありがとう」の言葉が交わされる、そんな我が家のような温かい家庭を持つが、私の将来の夢です。なぜなら、友達と家族の話をすると、我が家では当たり前の日常の風景が決してそうではないことに気づかされることが多いからです。

今年の「青年の日」で一つの気づきがありました。小金井教会では、教会のスローガンである『歩き出そう! 枠をこえてつながるサンガの温かさ』を基に、各部の枠、さらには募金に立つ側と献金してくださる方々の心の枠もこえようという思いで駅頭募金をさせていただきました。これまで何度も募金活動をしてきましたが、当日は、私たちと同年代の制服姿の高校生たちも献金していることに気づきました。一人では出来ないことも、みんなの力を合わせれば大勢の人々の仏性を開いていくことができると感じる事が出来ました。そして何より、自分からつながろうとする声かけから、物事が展開していくことを感じました。

みなさまの家庭が平和になるご縁になれるよう、まず私から声をかけ、相手の話をじっくりと聴くことで困っている人の手助けをしていきたいと思います。これからも教えを学び、多くの人と触れ合っていきたいと思います。

みなさま、ありがとうございました。



青梅少年キャンプに参加する梅津さん(後列左端)

法華三部經

各品のあらましと要点

妙法蓮華經 譬諭品第三 (2)

他力と自力

先ず、長者がいったんは「大力をもってみんなを箱のようなものに乗せて外へ押し出して救おうか」と思ったのに、考えなおして、子どもたちが自分から外へ出るように仕向けた……ということです。

これは〈他力の救い〉と〈自力の救い〉とどう違うかを暗示してあるのです。なんにもいわず、衆生を苦界の外へ押し出してあげるのは、他力の救いです。しかし、衆生は目の前の楽しみや喜びにうつつをぬかしているのですから、その救いの箱からこぼれ落ちることもありえます。窮屈な箱などに乗っているよりは、荒れてはいても広びろとした家の中で遊ぶほうがおもしろいからです。本人

が悟らなければ、そうなりやすいのです。また、いったんは火の家から出されても、中のおもしろさに引かれ、また戻っていくこともおおいにあります。

そこで、なんとかして自分の力で救われるように、仏さまは導かれるのです。どんな段階の救いを求めて走り出るのでもいい、羊車を願ってもいいし、鹿車を求めてもいいし、牛車を欲しがってもいい、とにかく〈自分の意志で門の外へ出る〉ことに意味があるのです。自分の意志で出たのなら、よほどのことがなければ後戻りはしません。信仰は、そうでなければならないのです。ただ神や仏に「救ってください」と頼むばかりで、自分の心を改めようとか、自分の行ないを正そうとかしないならば、ほんとうの救いに達するはずはないのです。自分の意志で、自分の修行によって自己の人格を完成してこそ、ほんとうの救いが実現するのです。

しかし、そういった修行が最終的にゆきつくところはどこかといいますと、小さな〈我〉を捨てて天地の真理に随順し、仏の大慈悲心の中へ溶け入る境地にほかなりません。ですから、この〈自力〉というのは、決して「おれが、おれが」というような〈我〉の力ではないのだということを知っていただきたいと思います。

つまり、自力信仰とは、自分の意志と努力によって仏に帰依していくことをいうのです。自力即他力であり、他力即自力であります。そして、それではなければ真の救いに達することはできないのです。そのことが、ここに暗示されているわけです。





我を捨てる

次に、ごく狭い門が一つしかない……ということ。そのただ一つの門というのは〈我を捨てる〉という心の一大転回にほかなりません。凡夫にとって、これはたいへん難しいことですから、狭い門だといっているのです。

この〈我を捨てる〉ことには、いくつもの段階があります。第一の段階は、〈おおかたの人生苦は、我のかたまりであるもろもろの貪欲からつくりだされるのだ〉という原理を悟ることです。それを悟っただけでも、ずいぶんと我から離れることができます。しかし、それではまだ我というものの生ずる原理までは分かっていませんから、十分ではないのです。

そこで第二の段階として、〈縁起の法則〉によって、われわれが懸命に欲しがったり執着したりする物事は、すべて因と縁とによってできた仮のあらわれだということを悟らなければなりません。また、〈十二因縁〉の法則によって、そういう貪欲のおおもとになるのは無明（無智）だということを知らなければなりません。

それらの法則を悟れば、いままでにぎりしめていた我というものが、実は実体のないものだということが分かります。従って、自己中心の考え方からひとりでに離れていくことができるのです。

さらには、もっと修行が進むと、〈この宇宙のすべての存在はもともと平等であり、大調和しているのだ〉という真実を悟ることができます。みんな平等に仏性をもっており、仏の子である仲間だ、きょうだいなのだという一体感を、しみじみ味わうことができます。そこまでくると、もう我などというものはすっぽりと抜けてしまって、影も形もなくなるのです。

主・師・親の三徳

この品の中に、仏教の全経典の中でもすぐれて尊いものといわれている、有名な偈があります。

〈今此の三界は 皆是れ我が有なり 其の中の衆生は 悉く是れ吾が子なり 而も今此の処は 諸の患難多し 唯我一人のみ 能く救護を為す〉

この宇宙は全部わたしのものだ。万物・万人はすべてわたしの子だ。その子どもたちが苦しみ悩んでいるのを救うことのできるのは、わたし一人しかいないのだ——という意味です。

これは、何もお釈迦さまが「宇宙は自分のものだ」と所有権を主張しておられるのでもなければ、「自分一人しか救えないのだ」といばっておられるのでもありません。「どのような人でもみな仏性をもっているのだ。だから、わたしはすべての人にそのことを分からせ、一人もあまさずに、わたしと同じ仏の悟りを得させてあげたいのだ」とおおせられているのです。

日蓮聖人はこの一偈から〈主・師・親の三徳〉ということを導きだして、お釈迦さまのお徳を讃歎しておられます。主の徳とは一切の衆生を守護



してくださること。師の徳とは一切の衆生を教え導いてくださること。親の徳とは、一切の衆生を慈愛してくださることをいいます。

そして、日蓮聖人は深い思索とさまざまな宗教的体験から、法華經を真に実践する者にも、このような三徳が具わるものであることを、ご自身の自覚として説かれました。

また、この一偈は次のように、より積極的に受け取ることもできます。

われわれが、ほんとうに我を捨てることができれば、必ず、すべてのものに生かされている自分を発見することができます。そして、すべてのもの、すなわち宇宙全体に生かされている自分をしみじみ見つめることができれば、自分がみるみる宇宙全体に広がっていくのです。

そうすると、心はまことに自由自在です。何ものにもとらわれず、思うように振る舞っても、それが

すべて真理（妙法）にかない、自分をもすべての人をも生かす行為になってしまうのです。

また、宇宙がわがものであれば、従って、その中に住む衆生はすべてわが子であり、きょうだいであり、仲間です。だから、それらのために親身になって尽くさずにはいられないのです。これがほんとうの大慈悲であり、仏の境地にほかなりません。

このことは、この品においてはただ暗示だけにとどめられています。なぜかといえば、いきなりこのことをズバリと説いても、なかなか悟りにくいことからです。それで、これからも根気よく長い説法をお続けになるわけですが、暗示によってある印象を与えておけば、いつかはそれが芽をふくことがあるわけで、お釈迦さまはそれをお見通しになって、この後でもこのような暗示を次つぎに与えられるのです。

(庭野日敬『法華三部經 各品のあらましと要点』

佼成出版社, 2016年 [初版 1991年], p. 49-56)

使命にめざめる

12月を迎え、一年の締めくくりの時を迎えました。同時に立正佼成会では、12月は新たな年のスタートでもあります。

その時に相応しく、会長先生から「使命にめざめる」というご法話をいただきました。5月から8回に分けて「八正道」を学んでまいりましたが、締め「正定」では、何事も楽しむことが大事であると確認いただきました。さらに、願いをもって仏の道を一歩進めることの大切さもお示しく下さいました。

聖壇のお役をいただいていたころ、「すべては合掌にはじまり、合掌でおわる」と教えられました。合掌礼拝に徹することをおして、やはり感謝の心を教えられたのでした。

来年、本会は米国布教60周年を迎えます。それは同時に、本会による国際伝道開始60周年でもあります。世界中の人々に尊いみ教えをお伝えする使命にめざめて、合掌礼拝の心で明るく楽しく精進させていただきます！

国際伝道部長

齋藤 高市



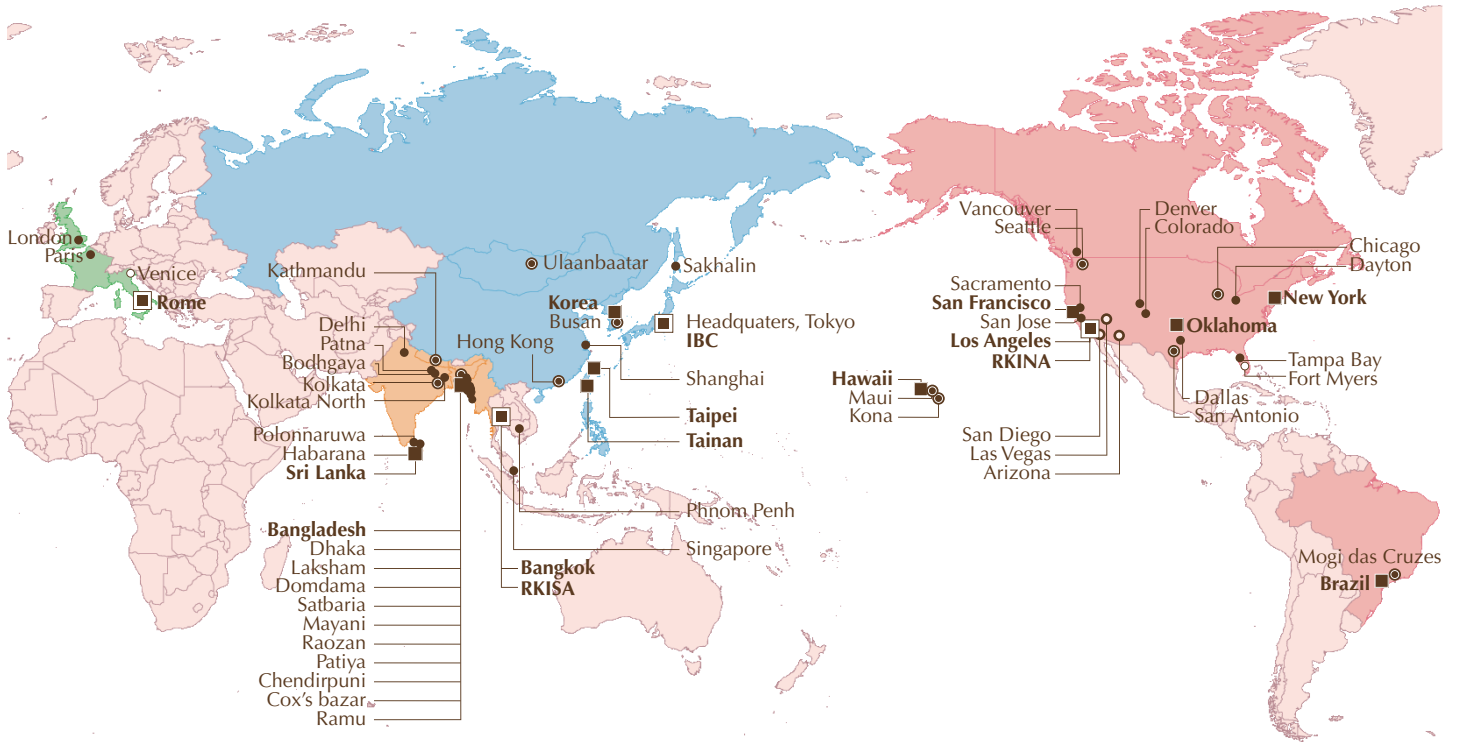
Living the Lotus では、皆様のご意見・ご感想を募集しています。

お問い合わせは、以下の E メールアドレスにお願い致します。

E メール : living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp



Rissho Kosei-kai: A Global Buddhist Movement



Rissho Kosei-kai International

Fumon Media Center 3F, 2-7-1 Wada, Suginami-ku, Tokyo, Japan

Tel: 81-3-5341-1124 Fax: 81-3-5341-1224

e-mail: living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

Rissho Kosei-kai International of North America (RKINA)

2707 East First Street, Suite #1, Los Angeles, CA 90033, U.S.A.

Tel: 1-323-262-4430 Fax: 1-323-262-4437

e-mail: info@rkina.org <http://www.rkina.org>

Branch under RKINA

Rissho Kosei-kai of Seattle's Buddhist Learning Center

28621 Pacific Highway South, Federal Way, WA 98003 U.S.A.

Tel: 1-253-945-0024 Fax: 1-253-945-0261

e-mail: rkseattlewashington@gmail.com

<http://buddhistlearningcenter.org/>

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Antonio

6083 Babcock Road, San Antonio, TX 78240, U.S.A.

P.O. Box 692148, San Antonio, TX 78269, U.S.A.

Tel: 1-210-561-7991 Fax: 1-210-696-7745

e-mail: dharmasanantonio@gmail.com

<http://www.rkina.org/sanantonio.html>

Rissho Kosei-kai of Tampa Bay

2470 Nursery Road, Clearwater, FL 33764, U.S.A.

Tel: (727) 560-2927 e-mail: rktampabay@yahoo.com

<http://www.buddhismtampabay.org/>

Rissho Kosei-kai of Vancouver

Rissho Kosei-kai Buddhist Church of Hawaii

2280 Auhuhu Street, Pearl City, HI 96782, U.S.A.

Tel: 1-808-455-3212 Fax: 1-808-455-4633

e-mail: info@rkhawaii.org <http://www.rkhawaii.org>

Rissho Kosei-kai Maui Dharma Center

1817 Nani Street, Wailuku, HI 96793, U.S.A.

Tel: 1-808-242-6175 Fax: 1-808-244-4625

Rissho Kosei-kai Kona Dharma Center

73-4592 Mamalahoa Highway, Kailua-Kona, HI 96740 U.S.A.

Tel: 1-808-325-0015 Fax: 1-808-333-5537

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Los Angeles

2707 East First Street, Los Angeles, CA 90033, U.S.A.

Tel: 1-323-269-4741 Fax: 1-323-269-4567

e-mail: rk-la@sbcglobal.net <http://www.rkina.org/losangeles.html>

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Arizona

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Colorado

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Diego

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Las Vegas

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Dallas

Rissho Kosei-kai of San Francisco

1031 Valencia Way, Pacifica, CA 94044, U.S.A.

Tel: 1-650-359-6951 Fax: 1-650-359-6437

e-mail: info@rksf.org <http://www.rksf.org>

Rissho Kosei-kai of Sacramento

Rissho Kosei-kai of San Jose

Rissho Kosei-kai of New York

320 East 39th Street, New York, NY 10016 U.S.A.

Tel: 1-212-867-5677 Fax: 1-212-697-6499

e-mail: rkny39@gmail.com <http://rk-ny.org/>

Rissho Kosei-kai of Chicago

1 West Euclid Ave., Mt. Prospect, IL 60056 U.S.A.

Tel: 1-773-842-5654 e-mail: murakami4838@aol.com

<http://rkchi.org/>

Rissho Kosei-kai of Fort Myers

<http://www.rkftmyersbuddhism.org/>

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Oklahoma

2745 N.W. 40th Street, Oklahoma City, OK 73112 U.S.A.

Tel: 1-405-943-5030 Fax: 1-405-943-5303

e-mail: rkokdc@gmail.com <http://www.rkok-dharmacenter.org>

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Denver

1255 Galapago Street, #809 Denver, CO 80204 U.S.A.

Tel: 1-303-446-0792

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Dayton

425 Patterson Road, Dayton, OH 45419 U.S.A.

<http://www.rkina-dayton.com/>

Rissho Kosei-kai do Brasil

Rua Dr. José Estefno 40, Vila Mariana, São Paulo-SP,

CEP 04116-060 Brasil

Tel: 55-11-5549-4446 / 55-11-5573-8377 Fax: 55-11-5549-4304

e-mail: risho@terra.com.br <http://www.rkk.org.br>

Rissho Kosei-kai de Mogi das Cruzes

Av. Ipiranga 1575-Ap 1, Mogi das Cruzes-SP,

CEP 08730-000 Brasil

Tel: 55-11-5549-4446 / 55-11-5573-8377

Rissho Kosei-kai of Taipei

4F, No. 10 Hengyang Road, Jhongjheng District,
Taipei City 100, Taiwan

Tel: 886-2-2381-1632 Fax: 886-2-2331-3433
<http://kosei-kai.blogspot.com/>

Rissho Kosei-kai of Tainan

No. 45, Chongming 23rd Street, East District,
Tainan City 701, Taiwan

Tel: 886-6-289-1478 Fax: 886-6-289-1488

Korean Rissho Kosei-kai

6-3, 8 gil Hannamdaero Yongsan gu, Seoul, 04420,
Republic of Korea

Tel: 82-2-796-5571 Fax: 82-2-796-1696
e-mail: krkk1125@hotmail.com

Korean Rissho Kosei-kai of Busan

3F, 174 Suyoung ro, Nam gu, Busan, 48460, Republic of Korea
Tel: 82-51-643-5571 Fax: 82-51-643-5572

International Buddhist Congregation (IBC)

Fumon Media Center 3F, 2-7-1 Wada, Suginami-ku, Tokyo, Japan

Tel: 81-3-5341-1230 Fax: 81-3-5341-1224

e-mail: ibcrk@kosei-kai.or.jp <http://www.ibc-rk.org/>

Branches under the Headquarters**Rissho Kosei-kai of Hong Kong**

Flat D, 5/F, Kiu Hing Mansion, 14 King's Road,
North Point, Hong Kong, Republic of China

Rissho Kosei-kai of Ulaanbaatar

15F Express tower, Peace avenue, khoroo-1, Chingeltei district,
Ulaanbaatar 15160, Mongolia

Tel: 976-70006960 *e-mail:* rkkmongolia@yahoo.co.jp

Rissho Kosei-kai of Sakhalin

4 Gruzinski Alley, Yuzhno-Sakhalinsk
693005, Russian Federation

Tel & Fax: 7-4242-77-05-14

Rissho Kosei-kai Friends in Shanghai**Rissho Kosei-kai of South Asia Division**

201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang
Bangkok 10310, Thailand

Tel: 66-2-716-8141 Fax: 66-2-716-8218

Rissho Kosei-kai International of South Asia (RKISA)

201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang
Bangkok 10310, Thailand

Tel: 66-2-716-8141 Fax: 66-2-716-8218

e-mail: thairissho@csloxinfo.com

Branches under the South Asia Division**Rissho Kosei-kai of Delhi**

77 Basement D.D.A. Site No. 1, New Rajinder Nagar,
New Delhi 110060, India

Rissho Kosei-kai of Kolkata

E-243 B. P. Township, P. O. Panchasayar, Kolkata 700094,
West Bengal, India

Rissho Kosei-kai of Kolkata North

AE/D/12 Arjunpur East, Teghoria, Kolkata 700059,
West Bengal, India

Rissho Kosei-kai of Bodhgaya

Ambedkar Nagar, West Police Line Road
Rumpur, Gaya-823001, Bihar, India

Rissho Kosei-kai of Kathmandu

Ward No. 3, Jhamsilhel, Sancepa-1, Lalitpur, Kathmandu,
Nepal

Rissho Kosei-kai of Phnom Penh

#201E2, St 128, Sangkat Mittapheap, Khan 7 Makara,
Phnom Penh, Cambodia

Rissho Kosei-kai of Patna**Rissho Kosei-kai of Singapore****Thai Rissho Friendship Foundation**

201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang
Bangkok 10310, Thailand

Tel: 66-2-716-8141 Fax: 66-2-716-8218

e-mail: info.thairissho@gmail.com

Rissho Kosei-kai of Bangladesh

85/A Chanmari Road, Lalkhan Bazar, Chittagong, Bangladesh
Tel & Fax: 880-31-626575

Rissho Kosei-kai of Dhaka

House#408/8, Road#7(West), D.O.H.S Baridhara,
Dhaka Cant.-1206, Bangladesh

Tel & Fax: 880-2-8413855

Rissho Kosei-kai of Mayani

Mayani(Barua Para), Post Office: Abutorab, Police Station:
Mirshari, District: Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Patiya

Patiya, sadar, Patiya, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Domdama

Domdama, Mirsarai, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Cox's Bazar

Ume Burmese Market, Main Road Teck Para, Cox'sbazar,
Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Satbaria

Satbaria, Hajirpara, Chandanish, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Laksham

Dupchar (West Para), Bhora Jatgat pur, Laksham, Comilla,
Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Raozan

West Raozan, Ramjan Ali Hat, Raozan, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Chendirpuni

Chendirpuni, Adhunagor, Lohagara, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Ramu**Rissho Kosei Dhamma Foundation, Sri Lanka**

No. 628-A, Station Road, Hunupitiya, Wattala, Sri Lanka

Tel: 94-11-2982406 Fax: 94-11-2982405

Rissho Kosei-kai of Habarana

151, Damulla Road, Habarana, Sri Lanka

Rissho Kosei-kai of Polonnaruwa**Branches under the Headquarters****Rissho Kosei-kai di Roma**

Via Torino, 29-00184 Roma, Italia

Tel & Fax: 39-06-48913949 *e-mail:* roma@rk-euro.org

Rissho Kosei-kai of the UK**Rissho Kosei-kai of Venezia****Rissho Kosei-kai of Paris**